

教科 【 社会 】

■生徒の状況

- ・全体的に明るく、素直で、授業に取り組む姿勢も概ね良好である。
- ・多くの生徒が教科に対する興味・関心をもっているが、分野によってはその意欲に差が見受けられる。

■指導における課題

- ・地図や統計資料、史料等を根拠として、社会的事象の背景や要因、影響などについて考察することに難しさを感じている生徒が多い。
- ・話し合いの活動では発言は活発であるものの、テーマから話題がそれたり、論点がずれたりする場面が見られる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- ・生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、アウトプット型のめあてを提示することで、毎授業のゴールを意識させる。
- ・「個人→集団→全体→個人」という学びのプロセスを意識することで、生徒が新たな視点を見付け、自分の考えを深められるようにする。
- ・調べるためのツールや学び方を生徒自身が選択し、主体的に学習を進められる時間を確保する。その際、学習のねらいを明確に示すとともに、学び方の違いによって何が分かるのかを具体的に整理して伝える。
- ・まとめ、振り返りの時間を十分に確保し、課題に対する自分の考えを100字程度の文章にまとめさせることで、学習内容を整理するとともに、根拠をもって表現する力を育成する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ・「Classroom」の質問機能や「スライド」等を活用し、グループやクラス全体に向けて意見を共有しやすいようにする。
- ・単元の特質に応じて自由進度学習を取り入れ、「スプレッドシート」等のICTツールによる進捗表を用いて生徒の学習状況を適切に把握し、学習状況に応じた助言を行う。
- ・「読み解く力」を育成するために、教科書の文章や図表を自分で読み取る時間を確保し、そこから理解したことや考えたことをまとめさせ、他の生徒に伝える活動を取り入れる。
- ・教師が考察の視点や話し合いの論点を示した上で、自分の考えをまとめ、他者との交流を通して考えを深められるようにする。

視点3

総合的な学習の時間との連携

総合的な学習の時間で扱うテーマ（人権、平和、環境、防災、キャリア、情報モラル、消費者教育等）を社会科の学習内容と関連付け、社会科においても「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」といった探究的な学習過程を取り入れる。これらの学習を通して、課題を設定する力、必要な情報を収集する力、情報を整理・分析する力、考えをまとめ表現する力を育成する。